

川越市立初雁中学校 三年 山口 愛果

「川越では今日も雨が降っている。」

雨という言葉を聞くと、気分がゆううつになる人もいるだろう。雨が降ると、外に出たくなくなる人もいるだろう。私もその一人だ。楽しみにしている運動会や遠足は、雨が降ると中止になってしまう。楽しみにしてきたものを一瞬でこわしてしまいう。私はそんな雨が好きではない。

ある理科の授業で、私の雨に対する考えが変わった。その授業は、『水の循環』についての内容だった。

地球表面の水は、海面や地面などから蒸発し、水蒸気となって大気中に移動する。大気中の水蒸気は、冷やされて水滴や氷の粒に変化し、雲ができる。雲の一部は、雨や雪となって地球表面にもどる。陸地に振った雨や雪は、河川を通じて海にもどったり陸地から蒸発したりする。このように、地球の水が絶えず海と陸地と大気の間を循環することを水の循環というのだそう。私は雨が私たちになくてはならない存在だということを知った。雨は、私たちが生きていく上で必要な水を運んでくれている。もし雨が降らなかつたら、水の循環のしくみはくずれ、私たち地球人は水を使うことも飲むこともできなくなってしまう。そのことを知った時、私は後ろめたい気持ちになつた。雨についてほとんど知らずにただ好きではないと思っていたことに。

その後、雨の壮大きさに魅了された私に、一つの心配事が頭によぎった。地球温暖化と雨との関係である。地球温暖化によって平均気温が上がり、動植物や農作物に大きな影響をおよぼしている。そのため、雨にも地球温暖化による影響があるのかもしれないと思った。気になって、調べてみると、私の嫌な予想は当たっていた。

温暖化すると海面の温度が上昇し、大気中の水蒸気量が増える。また、

海面から蒸発する水蒸気量が増加する。水蒸気量の増加は世界平均で見ると降水量の増加をもたらす。しかし、すべての地域で降水量が増えるのではなく、熱帯や高緯度では増え、亜熱帯では減ってしまう。また、強い雨が降る頻度も変わる。亜熱帯では頻度が減少するが、それ以外の地域では増加する。日本付近では一・五倍になる。強い雨の頻度が増えたと、洪水という問題が出てくる。また、降水量が減る亜熱帯では、干ばつという問題が出てくる。

川越では洪水の問題がすでに起きている。二年前に発生した台風十九号による堤防の決壊である。その長さは七十メートルにわたっていた。それにより広い範囲で浸水し、約百二十人の入居する特別養護老人ホームが一時孤立した。ある家の柱には、二十年前に川が氾濫した際に水が達した高さのテープがはり付けてある。しかし、台風十九号の時は二倍近くの高さまで水が達したようだ。

私たちに恵みを運ぶ雨。私たちに災いを運ぶ雨。雨には二つの顔がある。私たちは一方の顔に目をそむけることなく、良い面、悪い面どちらにも目を向けることが大切である。

散歩の途中、雨が急に降り出してきた。ポツン、ポツンと雨が地面を打ちつけている。雨のにおいが呼吸とともに体に入ってくる。私はなんだかうれしくなった。気づいたら笑顔になっていた。